

ポイント①

薄い酸によって土壌から溶け出すカドミウムが多いほど、大豆のカドミウム濃度は高い

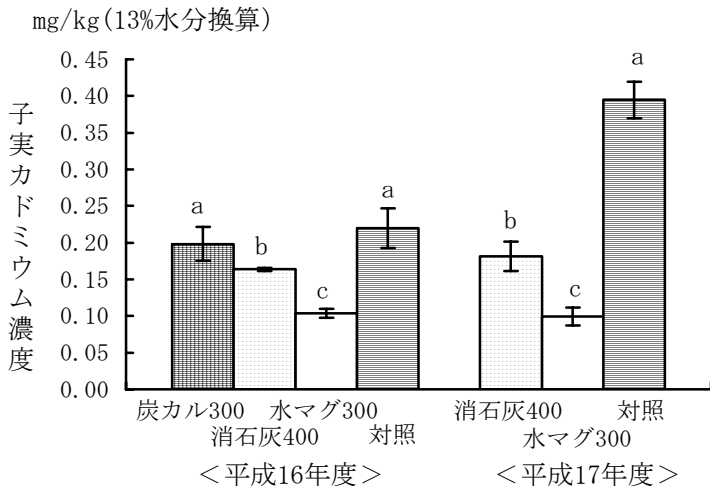
表1 大豆栽培跡地土壌中の0.01M塩酸浸出カドミウム濃度

区名	資材施用量 (kg/10a)			pH (H ₂ O)	0.01M-HCl 浸出Cd (mg/kg)
	炭カル	消石灰	水マグ		
H16-①	炭カル	300	—	6.0 b	0.013 b
	消石灰	—	400	6.3 a	0.010 b
	対照	—	—	5.8 c	0.033 a
H16-②	炭カル	300	—	6.2 a	0.063 b
	消石灰	—	400	6.4 a	0.035 b
	対照	—	—	5.8 b	0.255 a
H17	水マグ ³⁰⁰	—	300	6.1 a	0.029 c
	消石灰(粒)	—	400	6.0 a	0.129 b
	対照	—	—	5.4 c	0.177 a

注：それぞれの土壌の異なるアルファベット間には5%有意で差があることを示す

ポイント②

アルカリ資材を施用すると、薄い酸で土壌から溶け出すカドミウム濃度は低下する



ポイント③

消石灰または水マグを施用すると、大豆のカドミウム濃度は低下する

(問い合わせ先)

担当者：環境研究室 研究員 稲坂恵美子
電話：0857-53-0721

*本書から転載・複写する場合は、必ず農業試験場の許可を受けてください